

1. 完掘状況



2. 調査地点近景



3. 出土遺物

第3章 学術調査概要（保存目的）

第1節 津和野藩御殿跡・津和野城跡

第1項 はじめに

本発掘調査は、国指定史跡である津和野城跡の保存整備計画で追加指定を予定している中から調査範囲を設定した。まず、現在県指定になっている津和野城御殿跡、そして、津和野城大手門付近や南東からの登山道付近などを中心とした調査範囲として設定し、また、地下遺構の保存状況や絵図等の文献資料との確認をするために調査を実施した。

第2項 津和野藩御殿跡

1. 調査の場所

津和野町後田地内

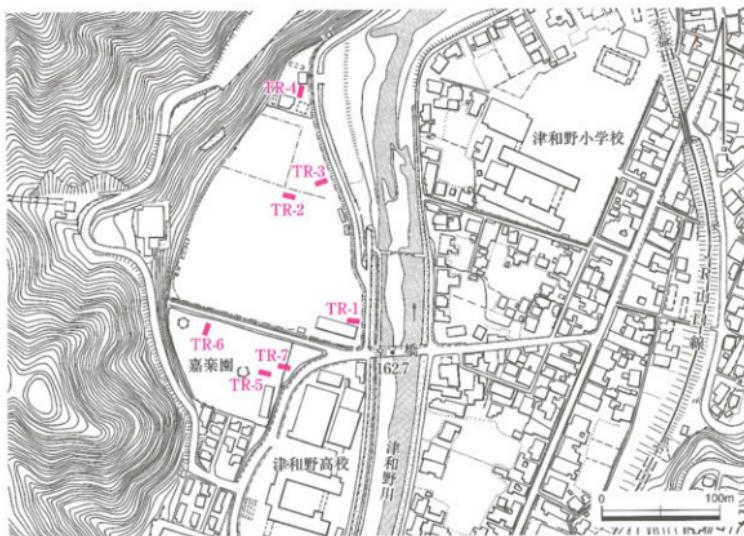
2. 調査対象の文化財及び調査面積

県指定津和野藩御殿跡 84.8 m²

3. 調査概要

①調査の方法

トレンチ方法の調査とし、当初はすべて人力による発掘としたが、藩邸東側では近現代の埋土が非常に厚いことが明らかとなつたため、一部重機を使用して排土作業を行つた。



第14図 津和野藩御殿跡トレンチ配置図

②調査区の設定

発掘調査地点を設定するにあたり、まず都市計画図（1/2,500）をもとに、町史2巻の津和野藩邸略図を地図上で合わせ、藩邸全体を把握することを重点に調査地点を7ヶ所設定した（第14図）。

しかし、現在藩邸跡は津和野高校のグランド、嘉楽園、町営住宅として利用されているため、調査区を自由に設けることは出来ず制限された。そのため、一ヶ所の調査区を大きく設けることが困難な為、約1m×5mの長方形のトレンチを基準に設け、調査状況によって拡張することにした。

③調査の成果

層序

近現代の埋土の下に、近世の遺物包含層・遺構面がある。さらに、一部トレンチにおいては、近世以前の中世遺物包含層の存在も確認した。

T - 1

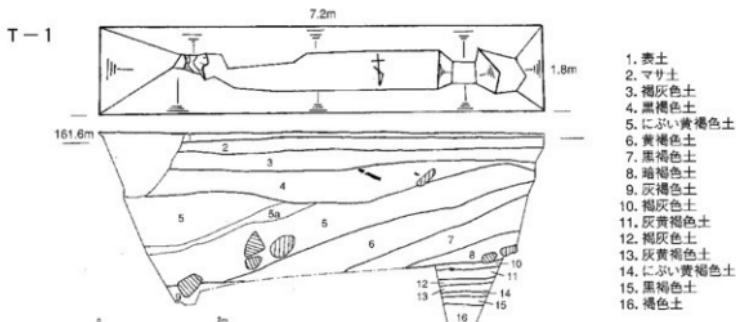
幕末期と推定される遺構面を検出し、トレンチ東端で浅い溝状遺構を検出した。石列、石垣等は確認されなかった。

T - 2

グラウンドの下約50cmで、直交する新旧2つの石垣が検出された。いずれも高さは約1mであるが、石垣の特徴には大きな違いがある。旧石垣（SV1）は大石を多用し、津和野城跡で用いられている石と同種の“石英閃緑岩”あるいは“ひん岩”的比率が高く、割面を持った石には矢穴（クサビ穴）が確認できるものがある。新石垣（SV2）は、小振りな川石を多用し、城跡を同種の石・割面のある石の比率が低く、矢穴が確認出来ない。また、新しい石垣の特徴であるいわゆる谷積み（落し積み）が多用されているという特徴もある。土層断面からは、SV1北東隅を利用して、石垣上半を積みなおし、北側に延長しながらSV2が築かれ、炭を多く含んだ土でSV1は埋められていることが確認できる。

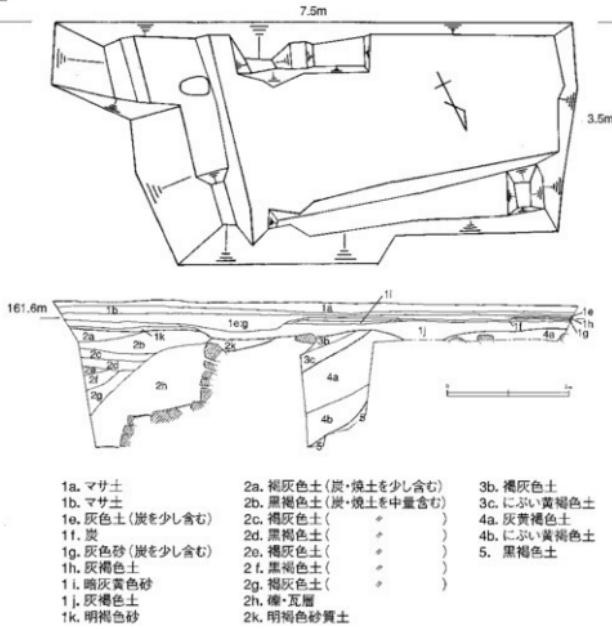
また、SV2の裾から東側に約1.1mでは、SV3と樹木痕（松か）が検出され、SV2の前面は犬走り状となり植樹がされていたと考えられる。

なお、旧石垣上面からは、逆L字形に曲がる集石列が検出された。

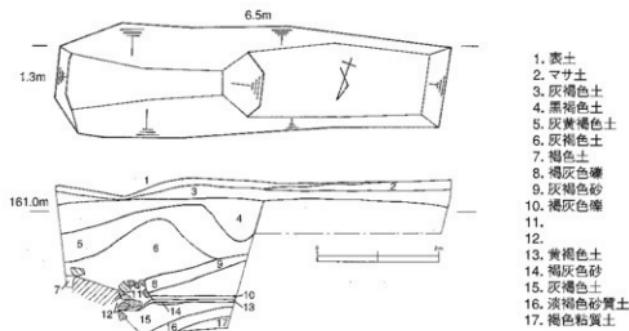


第15図 T-1 平面・断面図

T-2



T-3



第16図 T-2～3 平面・断面図

T - 3

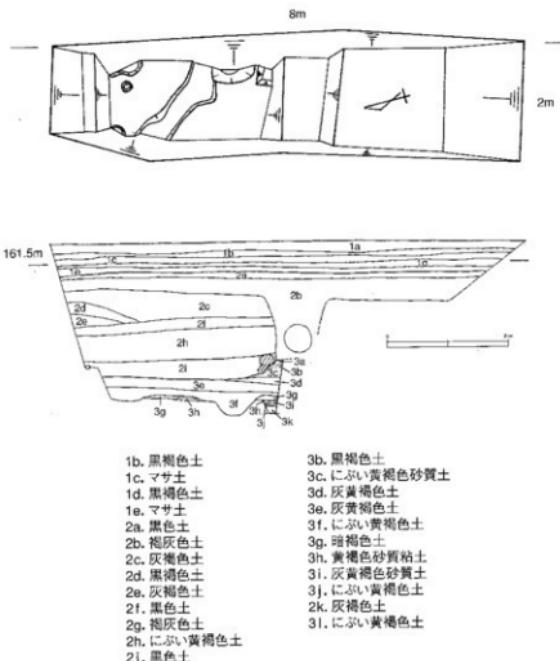
地表下約1.9mで幕末期と推定される遺構面を検出し、トレンチ東端で藩邸の東辺に相当すると考えられる石列を検出した。石列上面は、遺構面より約40cm高く土壘状となっていた。

また、石列の外側上面は炭化していた。

T - 4

位置的には藩邸の北端にあった門付近であると推測され、地表下約2.6mで幕末期と推定される以降面を検出した。この遺構面上では、北面する石積遺構が確認されたが、上部は後世の排水工事によって破壊されていた。

T - 4



第17図 T - 4 平面・断面図

T - 5

自然石の大石が多数検出された。これらの大石付近では、盛土の高まりが確認された。

T - 6

トレンチ北端では、地下室を検出。南北面のみを検出し、東西面は調査区外に広がっている。穴の内部に方形と推測される石積みをし、底面および南・北の石積み前面には粘土を貼って、壁面をいわゆる左官仕上げの土壁としている。底面粘土の下からは焼土・炭が検出されたことから、除湿目的で事前に火を焚いた可能性が高く、非常に念入りに構築された特殊な遺構である。また、トレンチ南半からは瓦敷遺構が検出され、北端は地下室廃絶時に破壊されている。裏向きの黒色無釉平瓦が2列並べられ、瓦の上下を砂・砂利混じり土で埋めた状態で発見されたが、性格は不明である。

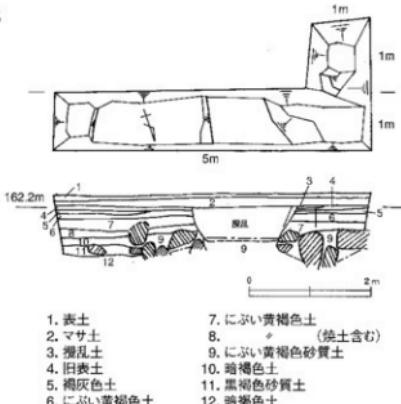
なお、さらに下層からは、柱穴状の遺構や、土師質土器片を含む遺物包含層が確認されることから、藩邸前半期あるいは藩邸以前の遺跡が存在している可能性がある。

T - 7

「嘉楽園」に現存する東辺石垣の背後を発掘。トレンチ上層では、近代遺構面・盛土層が検出されたことから、東辺石垣の上部は後世の積み足し、あるいは積み直しと考えられる。トレンチ中層では、東辺石垣の裏約1.7mにおいて幕末期と考えられる石列が発見され、この間には築地塀が存在している可能性がある。なお、この石列に伴う遺構面はトレンチ6の遺構面に対応する。トレンチ下層では、東辺石垣の下部裏込め石が多数検出された。

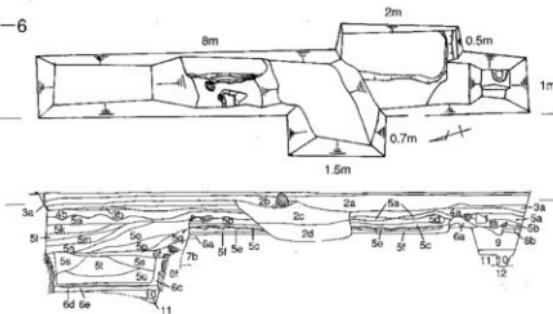
なお、津和野藩御殿跡については、『国指定史跡 津和野城跡 津和野城関連遺跡調査報告書Ⅰ』（島根県 津和野町教育委員会 平成19年（2007）発行）にも掲載されている。

T - 5



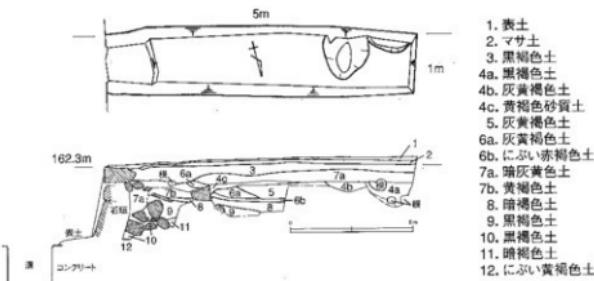
第18図 T - 5 平面・断面図

T-6



- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 褐土 | 5e. 灰黃褐色土 | 6a. 明黃褐色土 |
| 2a. マサ土 | 5f. 單褐色土 | 6c. にぶい黄橙粘土 |
| 2b. 棕色粘土 | 5h. 灰黃褐色土 | 6d. 純褐色土 |
| 2c. 褐灰色土 | 5i. 暗褐色土 | 6e. 暗褐色土 |
| 2d. 褐色壤土 | 5l. にぶい黄褐色土 | 6f. 暗褐色土 |
| 3a. 旧表土 | 5k. にぶい黄褐色土 | 7b. にぶい黄褐色土 |
| 3b. 褐色土 | 5l. 單褐色土 | 8b. 黑褐色土 |
| 3c. 棕色土 | 5m. にぶい黄褐色土 | 9. 灰褐色土 |
| 3d. にぶい黄褐色土 | 5n. 單褐色土 | 10. 黑褐色土 |
| 4a. 褐灰色土 | 5o. にぶい黄褐色土 | 11. 暗灰色土 |
| 4b. 灰黃褐色土 | 5p. 單褐色土 | 12. 褐色土 |
| 5a. 灰黃褐色土 | 5q. にぶい黄褐色土 | |
| 5b. 灰黃褐色土 | 5r. 黑褐色土 | |
| 5c. 灰黃褐色砂質土 | 5s. にぶい黄橙色土 | |
| 5d. にぶい赤褐色土 | 5t. 單褐色土 | |
| | 5u. 黑褐色土 | |

T-7

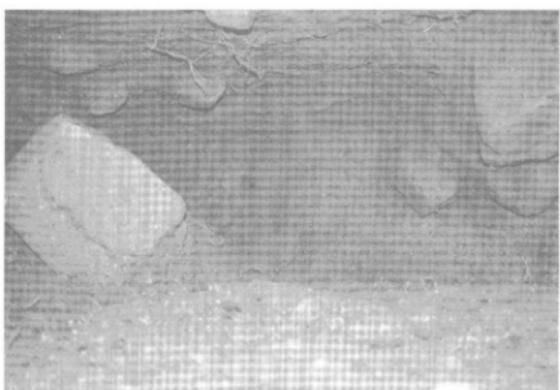


第19図 T-6～7 平面・断面図

図版15



1. T-1 (西から)



2. T-1 (石積遺構)



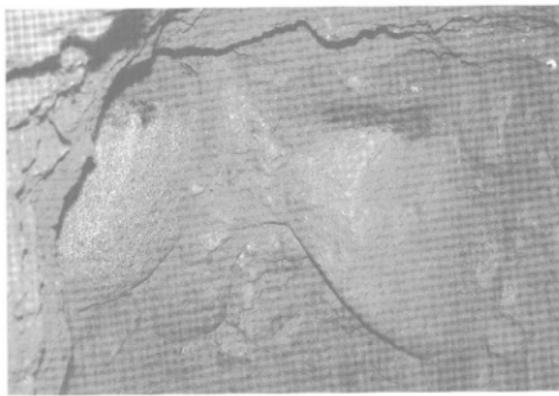
3. T-2 (東から)



1. T-2 (北から)



2. T-3 (西から)



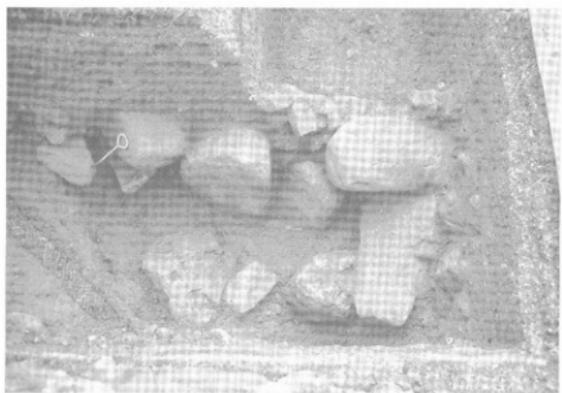
3. T-3 (石積遺構)



1. T-4 (北から)



2. T-5 (西から)



3. T-5 (石積造構)



1. T-6 (北から)

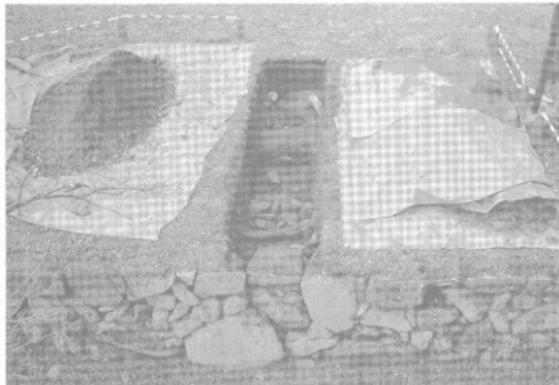


2. T-6 (瓦敷遺構)

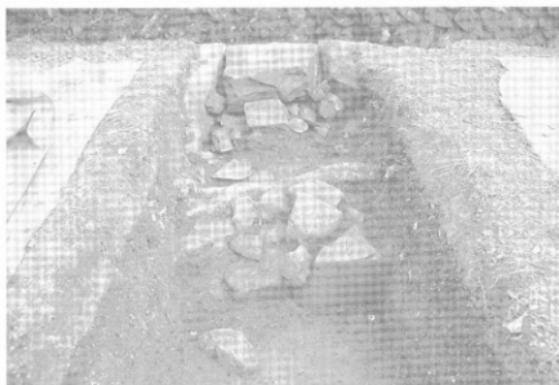


3. T-6 (地下室遺構)

図版19



1. T-7 (東から)



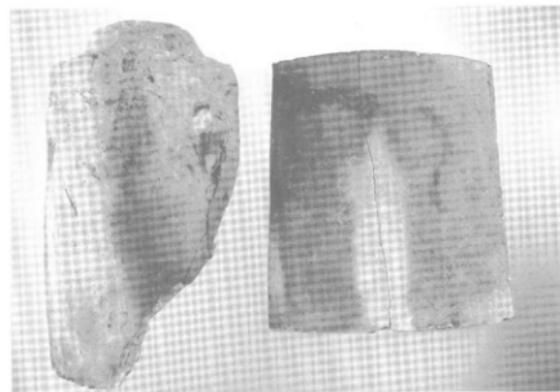
2. T-7 (石積遺構)



1. 出土遺物（陶磁器類・瓦類）



2. 出土遺物（瓦類）



3. 出土遺物（瓦類）

第3項 津和野城跡

1. 調査の場所

津和野町後田・鷺原地内

2. 調査対象の文化財及び調査面積

津和野城 後田地区 401.4 m² 鷺原地区 1221.4 m²

3. 調査概要

①調査方法

後田・鷺原両地区において、発掘作業に先立って調査対象範囲の草木を伐採し、遺構の現存の把握をおこなった。その結果、後田地区については、津和野城跡（津和野藩御殿跡）を構成する重要な遺構が存在することが判明した。

その後、人力による発掘調査を進めた。発掘作業はトレンチ調査を主として、遺構の保存状況の良好な範囲については部分的に面的な発掘をおこない、土層の堆積状況および遺構・遺物の広がりを確認した。出土遺物は、発掘小区画で層位別に取り上げた。発掘後には、写真撮影・図面実測・遺構測量などをおこなった。

②調査結果

後田地区

調査対象地は、津和野藩御殿跡の池庭と一体となった背後の山地の裾部に相当する。この山裾の岩盤には「巖井泉」と称された湧水穴があり、その湧水穴に至る道と石垣、石段が残っていた。発掘対象とした石垣・平坦面は、江戸時代前半期以降に構築され、一部が江戸時代後半期以降になって再構築されたことが、出土遺物から明らかとなった。

出土遺物の大半は瓦であり、上方の城跡出丸付近か、城大手口付近にあったものが造成土中に含まれた可能性が考えられる。

鷺原地区

調査対象地は、江戸時代の城下絵図等から城跡の南東方からの登城道入口付近に相当し、道祖神・荒神様が祀られていた場所であると推測されていた。発掘の結果、神社跡・登城道に沿って水路が存在していたことが再確認された。水路の北側は主に岩盤を削り出し加工しており、南側は神社敷地との境に石垣・石列を設けている。

南側の神社石垣の下にはさらに古い時期の堆積土が存在しており、この堆積土中からは江戸時代後半期以降の非光沢背釉赤色桟瓦が出土していることから、南側の神社石垣は江戸時代後半期以降に構築されたと推測される。なお、水路堆積土中からは瓦・陶磁器・土器類のほかに、神社の燈籠などの石製品も出土している。

③遺跡の時代と種類

- | | |
|-------------|-----------------|
| 後田地区 | 江戸時代の石垣 |
| <u>鷺原地区</u> | 江戸時代の神社跡・水路・登城道 |

④主な発見遺構

- | | |
|-------------|---------|
| 後田地区 | 石垣 |
| <u>鷺原地区</u> | 石垣・水路・道 |

⑤主な出土遺物

- | | |
|-------------|------------------|
| 後田地区 | 瓦類・陶磁器類・土器類・石製品類 |
| <u>鷺原地区</u> | 瓦類・陶磁器類・土器類・石製品類 |



第20図 津和野城跡調査配置図（後田地区）